

## 心臓突然死の原因になる心室細動

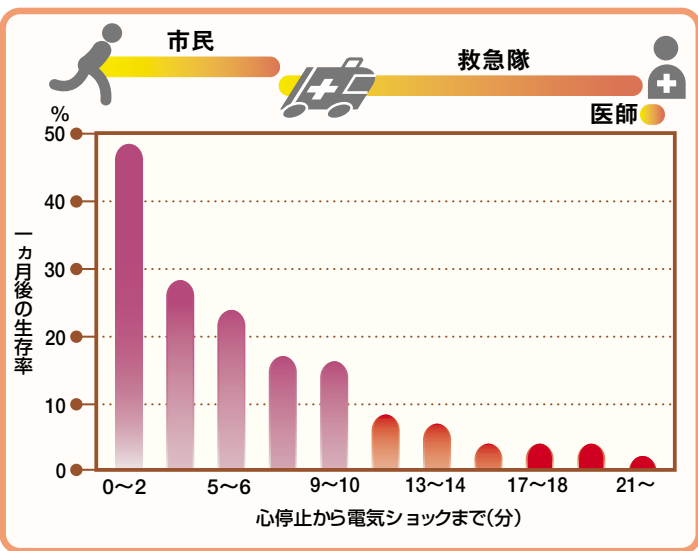
### 原因になる心室細動

日本における突然死は、年間約八万人と推定されています。およそ半分が心臓病による突然死で、毎日百人以上の方が亡くなっています。心臓突然死のほとんどは、心室細動が原因です。心室細動とは、心臓の心室が小刻みにふるえた状態になり、脳やからだに血液を送り出すことができなくなるため、数分間続くと死にいたる、危険な不整脈のことです。

このような心室細動を伴う心臓突然死を起こす人の多くは、虚血性心疾患（心筋梗塞など）や肥大型心筋症といった心臓病を持っています。

## 心室細動救命の決め手は早期除細動

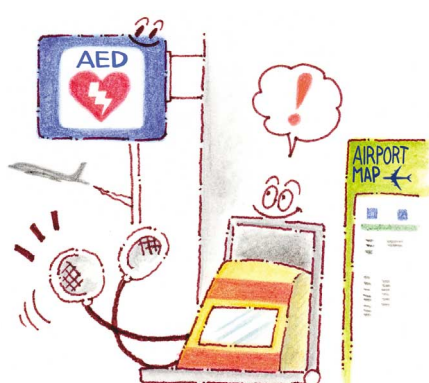
■除細動までの時間と生存率



心室細動を起こすと三〜五秒で意識を失い、呼吸が停止します。救命処置には除細動器を使い、心臓に電気ショックを与えて心室細動状態の心臓を正常に戻すことが必要です。心臓マッサージなど心肺蘇生術を施すことによって除細動器の到着まで救命時間をいくらか持ちこたえさせることができますが、心肺蘇生術だけでは救命はできません。現在、除細動は病院に搬送されてから行うか、現場

に駆けつけた救急救命士が行っています。しかし、発症から一分経過するごとに一〇%ずつ救命率が低下するといわれています。報告によると、救急救命士による心臓突然死の救命率は約三%ですが、ここま

## 欧米では公共の場に除細動器(AED)を設置



一刻も早く除細動するたためには、倒れた現場の近くに除細動器があらかじめ備えられていること、その除細動器を医師や救急救命士以外の人であっても、とにかく最初の発見者が簡単に操作できるようにすることが必要です。

アメリカでは公共性の高い場所には、医師でなくても簡便に操作できる自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator: AED) が設置されるようになりました。シカゴのオヘア空港など三つの空港には緊急足で六〇〜九〇秒歩けば間に合う間隔にAEDが設置されています。この三つの空港では二年間に十八例の心室細動がありました。十一例でAEDによる蘇生に成功しています。しかもそのうち六例は除細動の訓練を受けていない通行人が行ったものでした。

アメリカには「よきサマリタン法」という法律があります。聖書の挿話から名づけられました。善意の人が救命行為を行った結果、うまくいかなかった場合の過失責任は免除されるというものです。日本でも民法上はまず同様に扱われると思いますが、一般の人が勇気を持って救助するためには、このような法律があるといいかも知れません。

で低いのは、病人が倒れてから連絡まで、そして救急隊が現場に到着して除細動を行うまでに併せて一〇分以上の時間がかかってしまうからです。

**日本心臓財団より**

日本心臓財団は、わが国三大死因のうちの心臓病と脳卒中の制圧を目指して、一九七〇年に発足いたしました。

当財団は、研究に対する助成や予防啓蒙、また世界心臓連合加盟団体としての諸活動を通して、心臓血管病の予防・制圧に努めております。当財団は皆様の寄付により運営されています。どうぞ皆様のご協力をお願い申し上げます。

財団法人日本心臓財団  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内三、四一 新国際ビル  
☎03(3201)0100  
ホームページ・アドレス <http://www.jhf.or.jp/>